

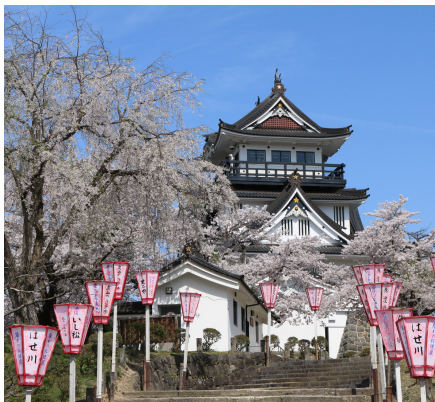
友好交流

ニュースレター

編集・発行：厚木市友好交流委員会

国内友好都市

友好都市を締結している秋田県横手市、北海道網走市、沖縄県糸満市には、本市にはない魅力がたくさんあります。今回のニュースレターでは、各友好都市の代表的なお祭りや行事の一部をご紹介します。市では、今回掲載しているお祭り等への市民訪問団等の派遣を年度ごとに企画していますので、是非ご参加ください。



秋田県横手市

豊かな自然環境と肥沃な土地に恵まれた横手市は全国有数の穀物地帯であり、古くから横手盆地の中心都市、交通の要衝として発展してきました。市内を貫流する横手川を中心に江戸時代から都市計画が行われてきた城下町であり、東北の「小京都」と言われています。



北海道網走市

北海道の東部に位置し、オホーツク海に面している網走市は、大小5つの湖と天都山と呼ばれる小高い山があり、起伏と変化に富んだ景観を形成しています。

また、阿寒国立公園や世界自然遺産に登録された知床国立公園が隣接するなど、自然公園に囲まれた自然の豊富さが魅力のまちです。



沖縄県糸満市

沖縄本島の最南端に位置し、沖縄戦終焉の地である糸満市は、ひめゆりの塔を始め、各都道府県の慰霊碑が多数存在するなど、平和の尊さと戦争の悲惨さを発信するまちです。

また、糸満ハーレーを始め、大綱引、棒術などの伝統行事が各字に息づき、全国でも珍しい旧暦文化と古い佇まいが色濃く残るまちです。

秋田県横手市

昭和60（1985）年5月24日締結

〈気候〉

横手市は秋田県内陸南部、奥羽山脈と出羽丘陵の間に広がる横手盆地の東側に位置しています。盆地特有の気候で気温の年較差は大きく、県内でも有数の豪雪地となっています。市街地は横手川を中心に開け、遠く烏海山を望み、「山と川のある町」として街並みの美しさは全国に知られています。



横手雪まつり

かまくら

横手は雪国の中でも有数の豪雪地帯です。この横手で2月15日、16日に開催される「かまくら」は、雪室の中に神座を設けて水神様を祀り、中で子どもたちが甘酒を飲んだりお餅を焼いたりして遊ぶ民族行事で、およそ450年の歴史があります。

藩政の頃、武家の住んでいる内町では、旧暦1月14日の夜、四角い雪の壁を作り、その中に門松やしめ縄などを入れ、お神酒や餅を供えてから燃やし、災難を除き子どもの無事成長を祈った左義長のかまくらを作り、鎌倉大明神を祀っていました。

一方、商人の住んでいる外町では、町内の井戸のそばに雪穴を作り、水神様（おしずの神さん）を祀り、良い水に恵まれるようにと祈りました。これに当時から子どもたちの遊びの中にあつた雪遊びが混ざり、様々な変遷を経て、現在の「かまくら」になったと伝えられています。



ぼんでん

「ぼんでん（梵天）」とは、神霊が降臨するための標示物・依代としての大きな御幣形のことを意味しています。五穀豊穰、家内安全、商売繁盛など様々な願いを込めて毎年2月17日の旭岡山神社初縁日に奉納します。

横手のぼんでんは、他に類を見ないほどの大きさ、優美さ、そして豪華さが特徴です。竿の長さは約4.3m。その先に約90cmの円筒型の竹籠を取り付け、色鮮やかな「さがり」（布地や麻糸等）を垂らし、しめ縄や紙垂、鉢巻を取り付け、さらに干支、人形等の意匠を凝らした頭飾りをのせます。全体の大きさは5mを優に超え、その重さは30kg以上にもなります。

北海道網走市

平成17（2005）年2月5日締結

〈気候〉

網走市は、北海道の北東部に位置し、オホーツク海に面しています。5つの湖と森林に囲まれており、自然豊かなまちです。一年を通じて日照率が高く、冬の降雪量も少ない上、寒気も海流の影響もあって内陸部に比べると厳しくはありません。沿岸地帯は、冬季の特殊現象として毎年1月中旬ごろから流氷が到来し、最盛期には沿岸を埋め尽くします。



あばしりオホーツク 流氷まつり

雪像と氷像

冰雪像はまつりの主役となるモニュメントで、網走地方の伝統、文化をテーマにしたものから人気キャラクターや巨大滑り台、さらにはアイヌのシンボルであるフクロウなど、幅広く制作されます。

また、夜になると氷像がライトアップされ、幻想的な光景を見ることができます。



流氷観光砕氷船「おーら」

網走は、北緯44度にあり、オホーツク海沿岸は海が凍る南限です。極寒のアムール川に登場し、やがて白い大地となって南下する流氷の衝撃的なまでの眩しさを流氷観光砕氷船「おーら」に乗って堪能することができます。

また、流氷が来る時期に合わせて様々な野生の動物たちも顔を見せ、流氷の天使クリオネを始め、アザシなどの海獣類や鳥類などが流氷の上で佇む姿を見ることができます。ときおり、陸上の動物であるキタキツネやエゾシカが出没することがあります。



沖縄県糸満市

平成30（2018）年8月4日締結

〈気候〉

糸満市は、沖縄本島の最南端にあって、那覇市から南へ12Kmのところの位置しています。亜熱帯海洋性気候に属し、年平均気温が22℃～23℃で、年較差が小さい気候となっています。また、夏季になると30℃を超える日が多く、加えて湿度も80%以上になるため、熱帯並みのかなり蒸し暑い日が続きます。



世界に誇る伝統行事

糸満ハーレー

昔からハーレー鉦が鳴ると、梅雨が明けると言われてきました。糸満ハーレーは、毎年旧暦5月4日に行われます。海の恵みに感謝し、より一層の大漁と航海安全を祈念する神事として、古い時代の集落である西村、中村、新島の3つのムラに分かれた勇壮な男たちが、ハーレー船（サバニ）に乗り込み暑き競漕を繰り広げます。

糸満大綱引

糸満大綱引は、毎年旧暦8月15日に行われます。豊年と大漁祈願、家内安全、無病息災を祈る神事で、南北に分かれた雌雄の綱の結合によって実りを予祝し、勝負の結果で吉凶を占います。綱作りに用いられる稲わらは総重量で約10トン、綱の太さは結合部付近が最大で直径1.5m、長さは雌雄合計180mにもおよび、県下でも最大級を誇ります。大綱引の前に「道ズネー」と呼ばれるパレードが行われ、「ゆがふう」「かりゆし」の旗頭を先頭に、約一千人余りの市民が参加して、舞踊や歌、子どもエイサーなどを沿道の観衆に披露しながら約2kmを練り歩きます。

